

Project	地域協働専攻 国際協働グループ
	E05 道南と青森におけるオシラサマ信仰の現在

メンバー	[学 生] 鳴海 麗/下山 昂大/藤田 月夜/中居 美穂/駒木 希奏 [担当教員] 村田 敦郎/今在 慶一朗
------	---

【背景】

オシラサマとは、東北地方で家の神として祀られており、多くは男と女の夫婦の神様で一對のご神体が作られている。その由来には馬と娘の悲恋物語があり、カイコの起源と養蚕に関わる神とされるが、家や地域によってその祀られ方は様々で、多様な役割をもっている。またアソブことが好きな神とされ、民間の女性宗教者と関わりの深い神様である。

昨年度、道南におけるオシラサマ信仰の現状を調査し記録した。その結果、オシラサマを祀る神社・寺院などの宗教的コミュニティはほとんど無くなり、個々の家庭において祀る人が残っているということ、1985年の渋谷道夫の調査から、函館近辺に200対以上のオシラサマを推定していたものの、大幅に減少してしまったことが明らかになった。

【目的】

オシラサマ信仰を通じた津軽海峡文化圏における共通の文化要素、差異の明らかにする。特に本年度は、津軽との文化交流についてまで視野を広げ、津軽地方のオシラサマ信仰の現状を把握し、道南のオシラサマ信仰の状況を比較し、考察する。また、道南における現在と過去のオシラサマ信仰の比較を行う。

【概要】

道南のオシラサマ信仰のルーツにあたる津軽でのフィールドワークと、昨年度から続けてきた道南におけるフィールドワークを通して、道南の民俗文化であるオシラサマ信仰の現状を記録した。青森県弘前市にある久渡寺で出会った住職やオシラサマの祀り手へのインタビュー、函館市にいるオシラサマを祀る個人や信仰に関わる宗教者へのインタビューの結果から、道南のオシラサマ信仰について考察した。

【プロセスと成果】

前期は、道南と津軽のオシラサマ信仰の比較を通して、女性宗教者との関わりや信仰の衰退がみられるという点で共通していることが明らかになった。津軽におけるオシラサマは、町内会で信仰が維持されているケースもあり、血縁と地縁に支えられた宗教縁をもつ民俗文化である一方で、それらの縁が希薄化した道南・北海道におけるオシラサマ信仰の宗教縁は、意志縁によるところが大きいということがわかった。

後期には、現在の道南のオシラサマ信仰について考察した。過去と比較して最も特徴的なのは、信仰が法人化した宗教団体ではないことである。自身の団体に名前をつけず、特定の宗教もなく、個人の集まりで活動しているという点は、現代のニーズに合った祀り方といえる。また、オシラサマ信仰に関わる宗教者自身がセンセイやカミサマ、イタコなどの民俗呼称を自称していないことも現代の道南の信仰の特徴である。



函館市の個人宅で祀られている
オシラサマ



アカデミックリンクへの参加

【総括と反省・今後の課題】

前期は、久渡寺でのフィールドワークを通じて、津軽でのオシラサマ信仰を調査・分析し、昨年度までの道南の進行状況との比較をすることで、道南におけるオシラサマ信仰の特徴がより明らかになった。また、青森と道南の間には、オシラサマやそれに関わる文化を通じた活発な交流があったということもわかった。

後期は、アカデミックリンクへの参加を通して調査成果を発表することができた。さらに、道南のオシラサマ信仰の過去と現在の比較を行い、オシラサマを祀る人や巫者が少なくなっていること、信仰の個別化が進んでいることがわかった。

活動を通して、目的であるオシラサマ信仰を通じた津軽海峡文化圏における共通の文化要素、差異を明らかにすることができているように感じた。また、後期に久渡寺とかかわりのある函館在住の宗教者へのインタビューも行ったことで、前期の活動の成果をより深めることができた。久渡寺でのフィールドワークで出会った道南のオシラサマの祀り手に対して、追加調査を行うことができたのも大きな成果であった。

今後の課題として、引き続き調査を行い、函館市内でさらにオシラサマを祀っている個人や、信仰を支える宗教活動をしている方を探すこと、そしてそれらの現状を記録していくことが挙げられる。

【地域からの評価】

11月にアカデミックリンクに参加し、ステージ部門で優秀賞を受賞した。本地域プロジェクトの民俗調査の活動が、地域内で一定の成果として認められたといえる。

また、インタビューにご協力いただいた方々から、激励の言葉をいただいた。

【その他】

年間スケジュール

■前期

4月 久渡寺調査の準備。資料の精査、質問項目の作成、調査対象の選定等

5月 久渡寺へのフィールドワーク
⇒住職と奥様、オシラ講への参加者(特に北海道出身者)とカミサマにインタビュー調査

6月 フィールドワークの資料整理。函館における追加調査⇒函館からの参加者に再度インタビュー

7月 調査資料のまとめ

■後期

11月 アカデミックリンク参加 ステージ部門

12月 久渡寺とかかわりのある函館在住の宗教者へのインタビュー